

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームふじの里 ふじ棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里 ふじ棟		
所在地	〒023-1762 岩手県奥州市江刺藤里字平37-2		
自己評価作成日	令和5年7月25日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム藤里では、私たちは”あふれる想いであなたに寄り添い笑顔が喜びとなる暮らしを想像します”という理念のもと、季節の行事を実施。家族との繋がりの維持とし、5月末からは、予約制の面会を一部解除している。地域との繋がりの維持として藤里地区文化祭への作品展示での参加している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、豊かな自然に恵まれ農業が盛んな江刺藤里地区にあって、2ユニットに加え認知症対応型デイサービス併設している。「ありふれる想いで、あなたに寄り添う」とする法人の経営理念の励行を職員全員が心がけ、各ユニットでもそれぞれのモットーを職員が常時携帯して実践につなげている。入浴は、金ヶ崎町の千貫石温泉から運んだお湯で温泉気分を味わえるなど、入浴を楽しめる支援を事業所開設当初から継続している。食事は、利用者の要望を随時取り入れながら、行事食や誕生日食などを職員が手作りで提供するなど、食事を楽しむ工夫を凝らしている。利用者は、事業所の傍にある畑で花の苗を植えるなど思い思いに楽しんでいるほか、花見や紅葉狩りなど季節ごとに近郊の名所・観光地にドライブしたり、計画になくても天気の良い日には急遽ドライブに出掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、「ありふれる想いで、あなたに寄り添う」を各ユニットで掲示し、管理者・主任を中心理念を心がけている。また、利用者の支援に関しても、理念に基づく対応が出来るよう、管理者・主任・職員が話し合い実践している。	5年ほど前に理念を見直し「明るく楽しくみんな仲良く」としている。法人の経営理念を各ユニットで掲示し、「10の心得」のカードを全職員が常時携帯し、意識の浸透を図っている。ユニット毎にそれぞれのモットーを掲げ【ふじ棟:明るく楽しくみんな仲良く、やまぶき棟:笑顔であいさつ明るい声掛け】、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	藤里地区の文化祭への作品展示での参加をしている。	町内会には加入していないが行事の案内や広報などが配布され、11月開催の地区の文化祭には利用者の作品を展示し、事業所のPRも行う予定である。地区の小学校及び中学校が昨年までに閉校となったほか保育園も今年度で閉園の予定と、これから地域との新しい交流の方向を模索することとしている。住民からは野菜や果物の差入れを頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が中心となり、グループホームについての説明を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年5月より、運営推進会議を感染対策をしたうえで、対面式で地域の方との意見交換を行っている。	運営推進会議は今年度から対面方式の開催に戻り、入居者の状況や行事、事故、職員体制などについて報告している。委員は地域の代表、駐在所、市の職員のほか、利用者及び家族については各棟からそれぞれ1名ずつ委嘱している。委員から避難訓練や面会方法など、様々な意見が出され、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、地域包括支援センター職員へ入居者の状況、並びに入居者の状況を報告し助言を頂いている。	市の職員を運営推進会議の委員に委嘱しているほか、要介護認定申請書等は市の江刺総合支所に直接持参している。転倒事故や感染症などが発生した都度に、同支所に報告している。生活保護受給中の利用者もあり、担当のケースワーカーが来所し、生活状況等の確認を行っている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急、やむを得ない場合を除き、身体拘束は行わないと、入居契約締結時に説明している。	身体拘束廃止関係と高齢者虐待防止関係の委員会を統合し権利擁護委員会としている。委員会は2カ月毎に開催している。委員は各ユニットから1名ずつ、開催結果は文書で全職員に回覧している。法人では職員に向けた虐待に関するアンケートを昨年実施しており、今年9月の実施結果は現在集計中である。研修(接遇を含む)は5月に1週間かけて全職員が受講した。スピーチロックは気づいた時点で相互に注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の権利擁護委員会にて、職員アンケートを行い、現在の対応方法などを分析し、啓蒙活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度、高齢者権利擁護推進委員養成研修受講、権利擁護についての知識を深め、成年後見制度についても必要と感じる場合は、各担当と話し合い進めて行こうと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安をあいての立場で考えるよう接し、丁寧に説明をするよう心掛けると共に、意向確認書にて、重要事項に関しては二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置し意見がある場合は記入し入れてもらうよう話している。	家族の来所時に要望等をうかがっている。面会制限があるため思うように面会できないとの声があり、面会方法を検討していくとしている。各部屋の担当者は、写真付きで利用者の生活や健康の状態を毎月1回家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者が、意識的に職員との会話をしている。ユニットミーティングにおいても、改善提案などの話し合いの機会を作っている。	代表者及び管理者は、職員が話しやすい職場環境づくりに努めている。全職員参加のユニットミーティングを定期だけでなく必要の都度開催して職員から意見を聞いている。毎月開催のカンファレンスではテーマ以外に自由な発言を薦め、これにより物品などの改善のほか勤務変更についても円滑に行われている。	

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度より、人事考課プロジェクト発足し、管理職だけでなく、職員も入りし進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮と共に、介護支援専門員の受験、介護福祉士の受験、実践者研修の受講予定者がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の会員であり、他施設研修も考えてはいる。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居内定した場合、本人様と面会し、ホームにてどのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親切かつ丁寧な説明を心掛けている。不安に思った所があった場合いつでも相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からホームの入居に関して困っている事や、不安、要望、ご家族様との意向を伺い、質問に応じ納得して頂けよう努めている。利用前であっても都度相談に応じられる事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様との面会を通し、今一番困っている事、一番したい事を明確にして、どのサービスが一番良いか話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員にて、食器拭き、おしぼり作り、洗濯物干し、洗濯物たたみを一緒にしていただいている。		

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月の便りにて、本人の生活の様子や思いを伝え、ケアに関して相談しながら気軽に話し合うことが出来る様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1回程度のドライブで近くを通るなどしている。また、面会の制限を一部解除してオンライン面会と共にご家族様との繋がりを持っていただけるようにしている。	面会制限がある中で、電話やオンラインでの面会を希望する利用者や家族へ逐次協力しているほか、思い出の深い場所や季節ごとの行事にドライブで出掛けている。敬老会では家族からお祝いのメッセージを届けてもらったり、友人から新聞を届けてもらうなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で隣同士に座ってもらったり、おやつを食べたり、レクリエーションなどを通じ全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際も、ご家族様、介護支援専門員と管理者にて、今後について話し合いを行い、いつでも相談に応じられる事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者ごとに担当職員を決め、入居者と話す場を設けている。また、一緒に制作する時間を取っている。	ほとんどの利用者とは言葉を交わして希望や意向を把握できているが、耳の遠い人には耳元で言葉をかけ、意思表示が困難な人には表情や単語で理解している。職員と利用者が一緒に作品を制作する時間は、利用者の思いや意向を把握する機会にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の聴取、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録にて、バイタル・食事摂取量・レク・入浴を記録し、日々の経過記録を確認し、毎月のモニタリングをもとに、課題分析表にてカンファレンスをしてケアプラン化し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、管理者、介護支援専門員を加えてカンファレンスを行い、より入居者様の意向を踏まえた生活ニーズとその支援内容を決定している。	入居時には1ヵ月、以降は3ヵ月毎に見直しをしている。居室担当者が1ヵ月分の業務日誌に記録している内容をまとめ、モニタリングを行っている。モニタリングをもとにケアマネージャーが計画の原案を作成している。医学的な見地からの内容が必要な場合には、主治医や看護師の意見を取り入れた計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、業務日誌、経過記録を元にモニタリングをし、実施記録にて職員間で情報を共有しながら実績、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者に合わせたケアに必要な事項や福祉用具の検討を常にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に作品での参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者様・ご家族様の医療に関するニーズを伺い、かかりつけ医を決めている。	協力医療機関への変更は、入居時に本人及び家族の意向を踏まえて行っており、現在1名が入居前のかかりつけ医に通院している。協力医療機関を受診する際は職員が同行しているが、家族が受診介助する際には情報提供書を家族に渡している。容態等に変化がある場合には、家族に随時、連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況、体調など状況に応じ都度、協力医療機関に報告し、利用者の体調管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めるとともに、退院時カンファレンスにて、スムーズにホームに戻って来られるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び状態の変化がある場合、ご家族様に、入居者様の終末期における意向を確認している。 看取りを行ったケースがあり、ご家族様と協力医とホームにて対応を話し合い、全職員間で共有している。 現在、入居されてる利用者の中にも、ホームでと希望されている方もいる。	入居時に、終末期等の対応が可能であることを説明している。過去に終末期のケアを行った経験はあるが、浴槽が個浴であるため、入浴が困難になった方には住み替えの話をしている。最後までお願いしたいという強い希望がある場合には、協力医療機関の協力を得ながら対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにのっとり、変化が見られた場合は社長及び管理者へ連絡し指示を仰いでいる。 緊急性がある場合は、救急へ連絡をすることとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、夜間訓練を実施しているが、避難の態勢については一部地域住民の協力は得られるが、現実的には近隣住民が仕事の為留守が多く難しいことも考えられ、警備会社と契約し、火災時の対応をお願いしている。	年に2回火災避難訓練を実施している。1回目は昼間、2回目は夜間を想定している。近隣の住民は日中は勤務している方がほとんどであるため、警備会社と契約し火災時の対応を依頼している。最短で駆けつけられる職員は5分である。備蓄は3日分の食料のほか発電機を備えている。両ユニットで車椅子の利用者が複数いるため、夜勤者のほか入居者の協力も事前をお願いしている。	車椅子の利用者を短時間で避難させる必要があることから、夜勤時の火災発生に備え、想定どおり素早く避難が行われるか、より実態に近い訓練の実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には耳元で話す。動作で押し量る等本人の意向の把握に努めている。また失禁等での失敗もさり気なくカバーし、誇りを損ねないようにしている。	利用者への呼び掛けは、希望により苗字または名前にさん付けしている。トイレに誘導する際は小さな声で行い扉を閉め、居室に入る際はノックし「失礼します」と言って入室している。入浴を希望しない方は別の日または足浴に変更し、異性介助を希望しない方は同性介助にするなど、臨機応変に対応している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を日常会話の中から引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声がけにて確認し、本人の自発性を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時、どの服を着ていくか相談しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間行事の中で、いつもとは違うメニューを職員内で話し合い提供している。また日常では、茶碗洗い、茶碗拭き等出来る事に取り組んでもらっている。	法人の栄養士が1ヵ月分の献立を作成し、利用者からリクエストがあれば随時変更している。行事の時にも利用者の要望を取り入れた食事内容にしている。食事の片付けなども一緒に行い、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事のバランスを考えたメニューを提供し、実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。 食形態に関しても、利用者様に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、適切な時間に声掛けでの確認やトイレへ行けない利用者へは時間で確認している。	トイレでの排泄を目指し排泄チェック表に基づいてトイレへの誘導を行っている。以前は紙おむつから紙パンツに変わった利用者がいたが、最近では高齢化・重度化に伴って自立に向かう利用者が少なくなってきた。そのような中でも、職員は排泄の自立に向けた支援に力を注いでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションを通して適度な運動量と水分補給を促し摂取するなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望に関しては、朝の会で入居者の意向を確認し、入浴してもらっている。	事業所内の浴室以外に、併設しているデイサービスの浴室で入浴を希望する利用者もあり、以前は2、3人で楽しく入浴する機会もあったが、コロナ禍のため現在も制限している。事業所創設以来、金ヶ崎町の千貫石温泉から職員が運ぶお湯は利用者に大変好評である。入浴剤やお気に入りのシャンプーを使用する人もいるなど、利用者個々に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝など、利用者様の訴えには柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。確認表を作成しセット者と与薬者をわけ誤薬の無いように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭にて季節の野菜を植え、成長過程を見たり収穫を通じ楽しみを感じられるよう行っている。気分転換にドライブなど外に出る機会も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会制限中ではあるが、特例として法事(3名)への参列もあった。	両ユニットの間の空間に小さな畑があり、草取りや花の苗を植えるなど思い思いに楽しんでいる。冬は初詣に岩谷堂の秋葉神社、春は花見に県立花きセンターや水沢競馬場、秋は紅葉狩りに種山高原などにドライブで出かけている。計画になくとも天気の良い日は急遽ドライブに出かけている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 ふじ棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則利用者の金銭所持はなくホームで預かり金として管理している。例年であれば買い物会などの行事を企画し金額を決めて購入できる場を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールに、季節の花を飾り、また利用者と共に作った壁飾り等掲示している。床暖、空気清浄機で適切な環境を整備している。「トイレ」の表示は利用者の目線に合わせて低い位置に貼っている。 車いすやシルバーカーを使用している利用者様もあり、動線も意識している。	共用ホールは床暖、エアコンが完備し快適に調整され、床や壁は落ち着いた配色となっている。月ごとに利用者の作品や花を飾っている。両ユニットが中庭を挟んで向かい合う形となっており、利用者同士がガラス越しにお互いに手を振ったりして、日常的に交流が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は、趣味が合う同士や、なじみの利用者同士で楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。	居室にはベッド、クローゼット、棚、洗面台が備え付けられている。床暖、エアコンがあり、快適な空調である。テレビ、お気に入りの人形、家族からのプレゼントのほか、仏壇などを持ち込んでいる利用者もいるなど、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名前等の表示することで迷わないよう配慮している。		